

平成25年度

学校評価総括表

五條市立五條小学校

教 育 目 標		「生きぬく力」をつけ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで心身共にたくましい児童を育成する。						総合評価
運 営 方 針		豊かな心・自律的な生活態度を養うとともに、なかまと共に主体的に学習する子を育てる。						B
24年度の成果と課題		本年度の重点目標			具 体 的 目 標			
基礎基本の時間の取組に系統性と統一性をもたせた。特別活動の工夫がコミュニケーション能力を高めることにつながってきた。5分前行動ができるようになってきた。地域と連携したあいさつ運動に前進は見られるものの、更なる取組の必要を感じる。温かい心の交流、規範意識の向上、安全意識の育成を図り、だれもが安心して生活できる集団づくりをする。教育のプロとしての力量を高め、保護者・地域との信頼関係を深める。		豊かな心を育成するため、感性や集中力を高める工夫を行う。			あいさつの励行。心に響く道徳教育・読書活動の推進。規範意識を高める。			
		児童の確かな学力の向上をめざし、学習内容や指導方法の改善を行う。			基礎的な知識・技能の定着。自ら進んで学ぶ力を育むための学習。			
		命を大切にし、自ら進んで運動に親しむ態度を育成する。			体育学習を中心に様々な運動に興味をもたせる。生活習慣を見直し改善する。食育の推進を図る。			
		教育環境の改善のため、家庭、地域社会との連携を深める。			保護者や地域社会との情報交換。地域ボランティア・学生ボランティアの導入。保幼小中の連携強化。			
		児童の可能性を信じ、絶えず伸ばそうとする教職員集団を作る。			計画的・継続的に研修を推進する。互いに高め合える教職員集団を作る。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育課程 学習指導	基礎的な知識・技能の定着を図る。	学年ごとに読書冊数を設定し、ときめきタイムの充実を図る。	B	A	B	習慣化してきた読書の成果を記録に残し、意欲につなげる工夫。	読書貯金や一言感想の実施。学習教室の継続。	・五條市の教育をリードしていくという気概をもって、五夢りんを活用しながら特色ある取組を行うこと。 ・人数が少なくなってきた分、人前で話す経験を数多くさせ、人との交わりを多く、深くさせることが大切。また、人の意見をよく聴いて自分に生かすことも大事。 ・自分たちが学習したことを、周りの人や地域に発信していく活動を継続すること。 ・正しい姿勢(立腰の姿勢)を意識させること。 ・気持ちのよいあいさつがあったり、トイレのスリッパがきれいに揃っていたり、落ち着いた雰囲気が感じられる。今後も、児童の自主的な活動を推進すること。 ・各種アンケートの実施・集約・考察・発信の労力には敬意を表するが、はたしてどれだけの保護者にどれほど理解されているかが疑問。最も顕著な項目の結果と考察のみを大きく分かりやすく掲載し、保護者の協力を得るようにすること。また、ホームページやブログをどれだけの人が見ているかを把握できれば…。 ・テーマを決めた学級懇談会の開催。 ・研究授業を継続し教員の資質向上をはかること。 ・学校教育の活性化のために、ベテランと若手の融合を図ること。 ・小中連携により互いに切磋琢磨すること。 ・人に対する言葉づかいなど、児童の人権意識を高めること。
		具体物や視覚教材の活用・補習の時間の確保等、指導方法を工夫する。	A			長期休業や放課後の補習体制の確立し、実施した。	児童が自主的に活動する手だての工夫。集会や委員会での発表の機会の充実。	
	コミュニケーション能力の育成・向上に努める。	学級朝の会・英語学習・集会など、スピーチの機会を多くする。	B	B		児童会、委員会活動での工夫が相乗効果を生んでいる。	児童が自主的に活動する手だての工夫。集会や委員会での発表の機会の充実。	
		互いの考えを認め合い、深め合える授業を行う。	B			授業の中に言語活動の場面をもっと設定することが必要。	心に響く道徳の授業づくりと学校独自の体育的活動の検討。	
	豊かな心・たくましい体を育てる。	道徳の時間を中心に、心に響く指導を行う。	B	B		道徳ウォッチングはそれぞれの力量を高める良い機会となった。	心に響く道徳の授業づくりと学校独自の体育的活動の検討。	
楽しい体育学習を通し、運動が好きな児童を増やす。	楽しい体育学習を通し、運動が好きな児童を増やす。	B	外遊びチャレンジ参加者多数。体育活動への意欲付けができた。					
生徒指導	あいさつ運動を推進する。	地域・保護者と連携し、挨拶の励行に努める。	A	A	A	校門では大きな声で挨拶ができるが通学途中での挨拶活動が不十分。	地域や保護者、児童会と連携したオアシス運動のさらなる推進。	
		児童会、委員会活動を積極的に推進する。	B			休み時間を使った委員会活動・給食時間の放送・全校朝会での発表など活発になってきた。		
	問題行動を予防するための取組をする。	5分前行動の定着、廊下歩行など様々な場を通じて、規範意識の向上を図る。	A	A		大半の児童には規範意識が身につけてきた。課題の残る児童への働きかけが課題。	個に応じた指導と問題の共有化。教師間の連携の継続。	
		職員間の情報交換を図る。	A			職員間の情報交換・指導統一の効果がでてきている。		
	家庭や関係諸機関との連携を図る。	家庭教育の手引きを発行し、基本的な生活習慣の定着につなげる。	B	B		「元気アップ週間」の取組を始める。意識高揚のための方法の工夫。	「元気アップ週間」の継続。保護者への啓発活動。	
関係諸機関と連携し情報交換を図る。	関係諸機関と連携し情報交換を図る。	B	教育委員会福祉部局と気になる子について話し合う。					
人権教育・特別支援教育	一人一人を大切にする取組を進める。	人権学習やQU研修を生かして、互いに認め合う学級をつくる。	B	B	B	QUについての話し合いを低中学年部会ごとに検討する方向へ。	出会いから学ぶ人権集会や人権講演会の検討。保護者を含めた人権意識の向上。	
		各学期、気になる子についての共通理解を行い、指導に生かす。	B			共通理解後、必要に応じてケース会議を持ち具体的な手だてを話し合う。		
		個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。	B			職員間の連携。「障がい」全般についての啓発指導計画。		
		人権教育講演会等保護者への推進を図る。	B			出会いを大切にしたい人権集会や、講演会の検討。		
組織運営	校長のリーダーシップのもとに、各分掌が役割と責任を果たす。	校長の学校経営方針を周知する。	B	B	B	校長のリーダーシップのもと組織としての学校運営が課題。	運営委員会や各種部会等組織の見直し。気軽に話ができる職場の雰囲気づくり。	
		月1回学校運営委員会を開き、学校運営に生かす。	B			学校運営委員会で意思統一ができた。時間短縮が課題。		
		悩み等を気軽に話し合える職場をつくる。	B			積極的に意見交流ができる職場づくりが必要。		
		教職員一人一人が服務規律を遵守する。	B			様々な場面で服務規程を自覚した行動が必要。		
安全管理	学校事故を未然に防ぐための取組を進める。	各学期、計画的に避難訓練を実施する。	B	B	B	緊急地震速報による訓練等、安全に対する意識を高められるような指導を実施。	危機管理マニュアルのさらなる周知徹底。安全点検表の作成。	
		安全点検を計画的に実施し、改善する。	B			安全点検項目、実施状況に関しての再確認が必要。		
		危機管理マニュアルを理解し、適切に対処する。	B			危機管理マニュアル研修・見直し等、確認ができた。		
研 修	計画的、継続的に研修を推進する。	研修組織を確立し、計画的に研修を行う。	B	B	B	テーマに沿って、様々なアプローチによる授業研修が実施できた。	研修参加体制の構築。研修の方向性の確認。	
		校外の研修にも参加し、教員としての資質を高める。	B			安心して校外研修に出かけられる校内体制の充実。		
保護者・地域住民との連携	双方向の情報交換を積極的に進める。	家庭訪問等で保護者との意思の疎通を図る。	B	B	B	保護者との信頼関係を築くための家庭訪問の継続。	学校通信の発行による保護者への啓発。PTA活動への呼びかけ。家庭訪問の充実。	
		PTA活動を計画的に推進し、保護者との連携を図る。	B			PTAと連携した行事を実施することができた。		
		学校通信発行や地域教育力の導入等を通して、保護者・地域との連携を図る。	B			通信・ブログ等で、学校の情報を伝えることができた。		